

第41回「東海やったん祭」を開催します！

東海やったん祭は、子どものための「手作りのお祭り」です。青少年関係団体によるさまざまな体験型の模擬店やアトラクション、軽食などの出店があります。ぜひご来場ください。

日時▼9月16日(月・祝)午前10時～午後1時(荒天時は規模を縮小して一部実施)

場所▼歴史と未来の交流館 ほか

その他▼当日は「がっちゃんこ祭り」を同時開催します。

問い合わせ▼東海やったん祭実行委員会事務局(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)



▲詳細はこちら



中学生ボランティアスタッフ募集中！

9月5日(木)までに、担任の先生へ申し込みください。

※詳細は、村内中学校のクラス掲示のポスターをご覧ください。



ふるさと歴史訪
〜自然を探して〜



樹液で見られる昆虫

気温が高くなってくると、村内の各地に植えられているコナラやクヌギから樹液が出てきます。樹液は微生物によって発酵されて独特な芳香が辺りに漂います。発酵した樹液の周りでは、香りに誘われてやってきたさまざまな昆虫を観察することができ

ます。人気があるのは、カブトムシやノコギリクワガタ、コクワガタなどの大型の甲虫でしょう。ブラシ状になった口器で一生懸命に樹液をなめます。オスの個体は発達した角や大顎をもち、樹液やメスをめぐってのけんかに活用します。

オオスズメバチやキイロスズメバチ、コガタスズメバチなどスズメバチの仲間も目立ちます。こちらにもひたすら樹液をなめとつています。餌がたくさんある夏の間は、こちらから近づかなければハチから攻撃してくることは少ないです。遠くの木にカブトムシやクワガタムシを見つけて一目散に近づいていくと、すぐ近くにスズメバチがいてひやりとすることがあります。目当ての虫を見つけたときには、その木全体を周囲から眺めてスズメ



【樹液をなめるオオスズメバチの動きバチ】

バチがいらないことを確認してから捕獲に向かいましょう。なお、スズメバチたちは日没後には自分の巣に戻るようです。昼間や日没直後の時間帯には注意をしながら昆虫を探しましょう。

カナブン、アオカナブン、クロカナブンなどカナブンの仲間も樹液にやってきます。カナブンは体色に変異があり、東海村では黄土色から緑色の個体が多く見られます。成虫はよく目にするので見られるカナブんですが、幼虫が野外でどのように生活しているのかはあまり分かっておらず、累代飼育(何世代にもわたって繁殖させ飼育すること)も難しいとされています。身近で名前が知られていながら、生活史が分かっている、実は飼育が難しい昆虫の一つと言えます。

生き物を捕獲、飼育して観察することはとても楽しいことです。ただし、昆虫に限らず一度飼育した生き物は最期まで飼育することが大切です。飼育個体を野外に逃がすことにより、生態系や遺伝子のかく乱、在来個体との競合、病原菌の逸出など大きな影響を及ぼす問題の発生が懸念されます。

茨城キリスト教学園中学校教諭

中村 篤史